



1日50円。積み重ねが、命を救う大きな力になります。



©Ceri Theunis

支援者番号 1180284

株式会社 クラスター様

この度は、国境なき医師団をご支援くださいまして、誠にありがとうございます。

貴方様からいただきました 100,000円のご寄付で、たとえば、次のようなことができます。

● 鎮膜炎のワクチンを 1,033人分	または	● 栄養治療食を 3,003食分	または	● マラリアの治療を 779人分
------------------------	-----	---------------------	-----	---------------------

(上記は、外国為替による変動があります。)

国境なき医師団では、ご支援をくださった皆さんに、緊急援助活動などの最新ニュースや、患者・活動スタッフの声、活動地で起きている人道危機などをお知らせするニュースレターをお届けいたします。

本日は、未来を支える「毎月の寄付」についてご案内したくお手紙を差し上げました。大地震などの予測不能な自然災害やエボラ出血熱など感染症の大流行に対する緊急援助の初動、HIV/エイズのARV治療や薬剤耐性結核の治療など中長期の医療援助を支え、安定した活動を可能にしているのが「毎月の寄付」です。

「毎月の寄付」は、1日50円、あるいは任意の金額を、クレジットカードまたは金融機関の口座から毎月振り替えていただく継続的な寄付です。金額の変更や停止などは、いつでもお電話にて承ります。是非この機会に、国境なき医師団のフィールド・パートナーとして「毎月の寄付」への参加をご検討くださいますようお願い申し上げます。

私たちの活動をわかりやすくご説明する、一目でわかる『はじめての国境なき医師団』を同封いたしますので、ぜひご一読ください。

皆さまのご寄付が、国境なき医師団の援助活動を支えています。危機に瀕した人びとの命を救うための医療・人道援助活動をこれからもご支援ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
事務局長 村田 慎二郎

村田 慎二郎

国境なき医師団は、活動と財務の透明性と説明責任を重視し、監査法人による厳正な監査を経た「財務報告」を含む『年次活動報告書』を公式ウェブサイト www.msf.or.jp/library/annualreport/ にて公開しています。

※この案内は、最近ご寄付をお申込みいただいた皆さまにお送りしています。既にご寄付や、郵送物の変更などのご連絡いただいた方にこの案内が届いた場合は、行き違いをご容赦ください。

国境なき医師団への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3F
寄付のお申し込み・お問い合わせは、**通話料無料** 0120-999-199 (平日9:00~18:00／土日祝日、年末年始休業)



重複出血した子どもの診察を行うMSFの医師/イエメン

感謝状

株式会社 クラスター
代表取締役社長 鹿糠 雅博 様

この度は、国境なき医師団の活動をご支援ください、誠にありがとうございました。

国境なき医師団は設立当初より、最も助けを必要としている人びとに援助を届けるために、自由で独立した立場から公平に人道援助活動を行うという原則を貫いてきました。

国境なき医師団は、アフガニスタンやイラク、南スーダンやシリアなど世界約90の国と地域（2020年実績）で、紛争や自然災害などの緊急援助活動のほか、コレラやマラリアなどの感染症対策や栄養治療、HIV／エイズ治療などの継続的な医療援助活動を行っています。貴社よりいただいた寄付金は、助けを必要としている人びとに直接、医療を届けるため大切に使わせていただいております。

国境なき医師団は、活動と財務の透明性と説明責任を重視し、監査法人による厳正な監査を経た「財務報告」を含む『年次活動報告書』を公式ウェブサイトにて公開しています。
<https://www.msf.or.jp/publication/annualreport/> よろしければご覧ください。

国境なき医師団の医療・人道援助活動は、貴社をはじめ皆さま一人ひとりの寄付によって支えられています。これからも国境なき医師団をご支援くださいますようお願いいたします。

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
事務局長
村田 慎二郎

村田 慎二郎



|||||

ご支援2年目を迎えた寄付者の皆さんへ

支援者番号 1180284

株式会社クラスター様



栄養治療食を食べる子どもたち。

日頃より国境なき医師団の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。

本日は、国境なき医師団へのご支援をはじめられてから2年目を迎えた皆さんに、あらためて感謝の気持ちをお伝えしたく、お便りいたします。

いまからちょうど1年ほど前に、貴方様からはじめてのご支援をいただきました。
ご寄付は、下記のような国境なき医師団の医療援助活動を通じ、多くの人びとの命を救うために使わせていただきました。

これまでに貴方様からいただきましたご寄付 400,000円は、
たとえば、次のようなものに相当しました。

はしかのワクチンを
16,129人分

または、

栄養治療食を
12,012食分

(上記は、外国為替による変動があります。)

医療を受けることができない人びとの命を救うため、国境なき医師団はいま、この瞬間も、
人びとの傍らで活動しています。こうした活動を支えているのが、皆さん一人ひとりのご寄付です。

これまでのご支援に心より御礼申し上げますとともに、危機に瀕した人びとの命を救う医療・人道援助活動をこれからもご支援くださいますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
スタッフ一同

追伸： この1年の感謝の気持ちを込めて、特製ポストカードを同封いたします。
ささやかではございますが、お受け取りください。

国境なき医師団は、活動と財務の透明性と説明責任を重視し、『年次活動報告書』を公式ウェブサイト
www.msf.or.jp/publication/annualreport/ にて公開しています。

国境なき医師団の寄付は、税制上の優遇措置（寄付金控除）の対象となります。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3F
寄付のお申し込み・お問い合わせは、 通話料無料 0120-999-199 (平日9:00~18:00/土日祝日、年末年始休業)



感謝状

株式会社クラスター
雅博
代表取締役 鹿糠雅博 様

この度は、国境なき医師団の活動をご支援いただき、誠にありがとうございました。

国境なき医師団は設立当初より、最も助けを必要としている人びとに援助を届けるために、自由で独立した立場から公平に人道援助活動を行うという原則を貫いてきました。

国境なき医師団は、アフガニスタンやイラク、南スーダンやシリアなど世界70カ国以上で、紛争や自然災害などの緊急救援活動のほか、コレラやマラリアなどの感染症対策や栄養治療、HIV／エイズ治療などの継続的な医療援助活動を行っています。皆さまからいただいた寄付金は、助けを必要としている人びとに直接、医療を届けるため大切に使わせていただいております。

国境なき医師団の医療・人道援助活動は、皆さま一人ひとりの寄付によって支えられています。これからも国境なき医師団をご支援くださいますようお願いいたします。

国境なき医師団は、活動と財務の透明性と説明責任を重視し、監査法人による厳正な監査を経た「財務報告」を含む『年次活動報告書』を公式ウェブサイトにて公開しています。<https://www.msf.or.jp/library/annualreport/>

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
事務局長
村田 慎二郎

村田 慎二郎



支援者番号：1180284

「むしろバングラデシュで死にます」
国境なき医師団でボランティアとして
働いているロヒンギヤの女性たちが
そう私に言いました。

株式会社クラスター 代表取締役

代表取締役 鹿糠雅博 様



ロヒンギヤ難民キャンプで現地スタッフの説明を受ける村田。

いつも国境なき医師団（MSF）の活動をご支援くださいまして、誠にありがとうございます。MSF日本事務局長の村田慎二郎です。今回は今年6月末から7月頭に訪れたバングラデシュのコックスバザールで、私が現地で見たことをお話させていただきたいと思います。

2022年は、1962年にビルマ（当時）でビルマ中心主義政権が誕生し、ロヒンギヤへの抑圧が強まってから60年、1982年に改正された国籍法により、自国民ではないとしてロヒンギヤの市民権がはく奪されてから40年、そして2017年にミャンマー国軍によるロヒンギヤの人たちに対する大規模な掃討作戦が起こってから5年がたちます。また、MSFがコックスバザールで避難してきたロヒンギヤの人びとに対して援助活動を始めて30年がたちます。

どうしてバングラデシュに訪問することを決めたか？ それは、これだけの年月がたっても国際社会からの関心が低く、ロヒンギヤ支援から撤退した援助団体もいるため、支援が手薄になっていることや、今年はウクライナ危機で関心がさらに薄れたという状況があるため、MSF日本として危機感を抱いているからです。

バングラデシュの南東部にあるコックスバザールでは、100万人以上のロヒンギヤの人たちが避難生活を余儀なくされています。5年前、その多くの人々はミャンマーから命からがら逃れてきました。

竹で作られた小屋のような簡易シェルターが無数に密接しているロヒンギヤの難民キャンプは、いまや世界最大となっており、そこはさまざまな病気がまん延しやすい環境です。 例えば今年に入り、疥癬（かいせん）という病気が大流行しています。ヒゼンダニという小さなダニが人の皮膚に寄生することで起こり、激しいかゆみを伴う感染症です。密集した生活環境や、衛生面の問題も関係しており、キャンプ全体での有病率はおよそ30%にも上ると予想されます。治療をしないと深刻な心臓病や腎臓病、敗血症などにもつながる恐れがある病気ですが、現地の他の医療施設では薬がないため、MSFの病院に患者さんが集中している状態でした。

慢性疾患を抱えている患者さんもとても多いです。MSFでは今年1月～3月だけで1万6000件の高血圧や心臓病、糖尿病の診察がありました。糖尿病の治療に必要なインスリンは高価で、キャンプ全体で無償で提供できているのはMSFの病院だけです。キャンプ内での区画間の自由な移動は制限されているため、患者さんたちは何時間もかけて遠回りをしてでもMSFの病院に来ていました。

（裏面に続く）

そして印象的だったのは、心のケア。ある病院では、心のケアの診療科を訪れる患者さんの40%は精神科医による専門的な治療が必要な精神疾患を患っています。5年前と比べると、ミャンマーで自分の身のまわりで起きた殺りくの場面のフラッシュバックで悩まされる患者さんは減っていますが、一方でいまのキャンプでの生活やいつ元の生活に戻れるか分からぬ将来への不安で悩む患者さんが増えてきています。特に、将来に対する希望を自分の子どもに与えられないストレスを抱える親の患者さんが多いのです。

そんな困難な生活をキャンプで何年も余儀なくされているロヒンギヤの人たち。私はMSFでボランティアとして働いている女性たちにこんな質問をしてみました。

「もし明日、ミャンマーとバングラデシュとの国境が開いてミャンマーに帰れることになったら帰りたいですか？」

すると出てきたのが、「私たちは自分たちが生まれ育った故郷を愛しています。ミャンマーに離れ離れになつた家族もいます。でも、むしろバングラデシュで死にます」という返事でした。

理由は、明らかでした。長年のあいだ自分たちを迫害し、土地を取り上げ、財産を奪い、家を焼き尽くし、家族をレイプし殺害したミャンマー軍。その軍が政権を取つたいまのミャンマーには、帰れないということでした。

自分たちの家族に起こった悲劇を話してくれた、私とのインタビューの最後。彼女たちから出てきたのは、MSFとMSFを支える寄付者の皆さまへの感謝の言葉でした。彼女たちは、ミャンマーにいた時から患者としてMSFのことを知っていたと言います。その時から病院に貼つてあったMSFの憲章の一文に感謝していたそうです。

「国境なき医師団は苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて差別することなく援助を提供する」

バングラデシュに逃れ、難民となり、自分と同じ境遇の人たちを支えるためにボランティアとして働いている彼女たち。いまは、MSFの原則の「独立・中立・公平」が国境を越えて医療を届けるためにどれだけ大切か、身に染みて分かると話してくれました。

日本の皆さまからの温かいお気持ちは、同じアジアにいるロヒンギヤの人たちにも確実に届いています。これからもご声援とご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年10月

これ-Sahモ、皆さまの温かいお力を
引き続き貸して下さりますよう、お願ひ申し上げます。



国境なき医師団日本
事務局長

村田慎二郎

※日頃よりご支援いただいている皆さまには重ねてのご支援のお願いとなりますことをお許しください。また、郵送物の変更などをされました方に行き違いでこのご案内が届きました場合は、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

国境なき医師団日本への寄付は、税制優遇措置の対象となります。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付のお申し込み・お問い合わせは、**通話料無料** 0120-999-199(平日9:00~18:00／土日祝日、年末年始*休業)